

日本旧石器学会総会

次 第

次 第

1. 会長挨拶
2. 委員会報告・審議
 - 2.1. 総務委員会
 - 2.2. 会計委員会
 - 2.3. 会計監査委員会
 - 2.4. 会誌委員会
 - 2.5. ニュースレター委員会
 - 2.6. 渉外委員会
 - 2.7. 研究企画委員会
 - 2.8. データベース委員会
 - 2.9. 入会資格審査委員会
 - 2.10. 広報委員会
 - 2.11. 日本旧石器学会賞選考委員会
3. その他の報告と審議
 - 3.1. 2021年度役員会の体制について
 - 3.2. 2022年度役員会に関する選挙管理委員の選出について
 - 3.3. 2022年度総会・研究発表・シンポジウムの開催について

以上

総務委員会

1. 2020年度の活動報告

2020年度の総務委員会の活動は以下の通りである。

- (1) 会員情報の管理
 - ・2020年度新入会員は4名、退会者は4名で、2021年4月1日現在での会員数は229名である。
- (2) 役員会開催のための意見交換・連絡調整・資料の作成
 - ・2021年5月30日（日） ZoomによるWeb会議
- (3) 総会・研究発表・シンポジウム開催に関する意見交換・連絡調整・資料の作成
 - ・新型コロナウイルス感染拡大を受け、延期を決定した2020年度研究発表・シンポジウムの開催は正式に中止とした。
 - ・新型コロナウイルス感染の再拡大を受け、臨時役員会での審議の結果、2021年度総会・研究発表・シンポジウムについてはオンラインで開催することを決定した。
- (4) 会務に関する連絡・調整、各委員会間の連絡・調整
- (5) 会誌（「旧石器研究」第17号）、ニュースレター（第45・46・47号）、各種学会連絡文書の発送
 - ・会誌発送：2021年5月末予定
 - ・ニュースレター：2020年8月第45号、2020年12月第46号、2021年5月第47号
 - ・それ以外に適宜要望に応じて発送を行なった。
- (6) 日本考古学協会での図書交換会中止をうけ、同会におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布は中止とした。
- (7) 研究グループ支援制度に関する事務
 - ・研究グループ継続申請への対応
 - 「郡家今城遺跡の再整理」（研究代表者 鈴木忠司）
 - 「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」（研究代表者 堤 隆）
 - ・「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」はコロナウイルス感染症の影響により、全額繰り越しとなった為、「郡家今城遺跡の再整理」のみ2020年度活動報告をニュースレター第47号に掲載
- (8) 日本旧石器学会賞
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年度総会における2019年度の学会賞・論文賞の授賞式は中止となり、賞の授受は郵送により行われた。
 - ・2020年度の学会賞、論文賞選考に係る事務を行った。
- (9) メーリングリストに関すること
 - ・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため、メーリングリストを運用しているが、新型コロナウイルス感染拡大の中、メーリングリストの更なる有効活用と登録率の向上を図る必要であり、役員会での議論と了承のもと、メーリングリストへの登録を原則、義務化した。現在の登録人数は117名である。

(10) 共催・資料提供等について

- ・2020年度は特になかった。

2. 2021年度の活動計画

以下の項目に取り組み、それ以外は経常的な会務に取り組む。

(1) 総会・研究発表・シンポジウムの準備・連絡調整

- ・2022年度の総会・研究発表・シンポジウムは、2022年6月に、愛知県を中心とした東海地区を会場として実施する予定である。

- ・新型コロナウイルス感染拡大が終息しない場合は、オンラインでの実施を検討。

(2) 日本旧石器学会賞の選考

工程 2021年8月 ニュースレター第48号で「学会賞推薦」の告知

2022年3月頃 学会賞選考委員会を開催し、推薦をもとに受賞者候補を決定

2022年5月 日本考古学協会総会時の役員会で決定

2022年6月 日本旧石器学会総会にて授賞式

(3) 次期役員選挙2023年度

工程 2021年5月30日 本役員会にて選挙管理委員会3名の審議

2021年6月12日 総会にて選挙管理委員会の承認

2021年12月 ニュースレターで選挙告示

2022年2月 立候補・候補者推薦締切

2022年2月 選挙公報および投票用紙の送付

2022年4月 選挙管理委員会による開票

(4) 研究グループ

- 2022年度採択研究グループに、運営費交付金を交付し、活動を支援する。

以上

(総務委員会：渡辺丈彦、森先一貴、国武貞克)

会計委員会 報告

1 2020 年度の活動実績について

(1) 役員会, 総会・研究発表・シンポジウム, 日本考古学協会図書交換会時

- ・会費・学会刊行物頒布代金の徴収(総務委員会と協同)及び収入の学会口座への預入
- ・日本旧石器学会賞副賞, 各委員会立替金, 仮払金等の現金支出

※本項目は、オンライン開催(役員会)または開催中止等(その他行事)のため活動実績なし

(2) 通年

- ・会費納入状況管理, 会費納入・住所変更等の総務委員会への報告, 刊行物頒布等収入の管理
- ・シンポジウム登壇者, 普及講演会講師及び会議・普及講演会・データベースワークショップに出席した役員の交通費補助額の算定・支払

※オンライン開催(データベースワークショップ)または開催中止(シンポジウム, 普及講演会)のため活動実績なし

- ・刊行物(会誌16号, ニュースレター44・45・46号)印刷・発送費支払
- ・HP管理・メーリングリスト構築運用委託費の支払
- ・APA日本大会経費積立金の口座管理(積立金入金・支払等)
- ・役員選挙実施に伴う経費及び研究グループ運営経費の支出
- ・その他, 学会出納口座の管理

2 2020 年度決算(案)について(表1・2参照)

(1) 一般会計

収入	予算額を535,600円下回った。シンポジウム中止により予稿集が刊行されなかったこと, 日本考古学協会図書交換会や当会の総会中止により, 会費納入や図書頒布の機会が減少したことにより, 主要な費目すべてで収入が大きく減少した。
支出	通信運搬費及び雑費を除く費目が予算枠内で執行され, 予算を642,999円下回った(予備費を除く)。なお, 各種行事の中止又はオンライン開催のため, 会議費・会場設営費及び旅費交通費の支出は発生しなかった。 【通信運搬費支出増の原因】事務局移動に伴い, 事務局資材の送料が増加した。 【雑費支出増の原因】会費納入方法がすべて郵便口座払込みになったことにより, 郵便振替手数料が増加した。
総括	92,399円の黒字が発生し, 2021年度への繰越金は2,079,391円となった。

(2) 特別会計

所定の150,000円を積み立て, 780,000円を2021年度に繰り越した。

(3) 会計監査

2021年6月4日に, 会計監査委員から監査を受けた。

3 2021 年度活動計画及び予算(案)について(表3・4参照)

(1) 一般会計

前年度執行額をベースに予算編成及び執行を行う。前年度に予算の執行がなかった会議費・会場設営費及び旅費交通費については, 各種行事の開催方法に基づき予算編成及び執行を行う。

◎役員会, 総会・研究発表・シンポジウム, 普及講演会, ワークショップ等の開催に係る経費については, 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から執行のあり方を協議し, 機動的かつ適正な執行に努める。

- ・会員に対する刊行物の配付経費等, その他の経費についても, 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から適正な執行に努める。

- ・予備費の適正な活用によりコロナ禍においても活動の充実を図るとともに, 経営安定にも配慮する。

(例) 研究グループ運営経費の維持(1グループ30,000円)。

(2) 特別会計

所定の150,000円を積み立て, 780,000円を2021年度に繰り越す。

表1 日本旧石器学会 2020年度一般会計決算(案) 単位:円

収入				
費目	予算額	決算額	増減	摘要
会費収入				
会費収入	1,374,000	1,138,000	△ 236,000	延べ190人・年分【内訳】～17年度2人, 18・19年度13人, 20年度165人, 21年度～10人
その他の収入				
会誌頒布代金	228,000	140,800	△ 87,200	最新刊(16号)36冊, バックナンバー8冊
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	21,600	△ 212,400	中止のため刊行せず。バックナンバー18冊
その他収入	0	0	0	
前期繰越収支差額	1,986,992	1,986,992	0	
収入計	3,822,992	3,287,392	△ 535,600	
支出				
費目	予算額	決算額	増減	摘要
会議費・会場設営費	95,000	0	△ 95,000	日本考古学協会図書交換会及び総会・シンポジウム中止のため不用
旅費交通費	177,000	0	△ 177,000	各種行事の中止又はオンライン開催のため不用
通信運搬費	121,000	171,380	50,380	会誌・ニュースレター・役員選挙公報・投票用紙送料等, 事務局移動に伴う資材輸送等
消耗品費	3,000	0	△ 3,000	
印刷製本費	1,116,000	728,948	△ 387,052	会誌, ニュースレター3件
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	0	HP管理・メールリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	60,000	60,000	0	1グループ30,000円×2件
日本旧石器学会賞関連経費	36,000	3,564	△ 32,436	賞状製作。副賞付の若手奨励賞は選考中止
雑費	27,000	28,109	1,109	郵便振替・振込手数料等
予備費	1,971,992	2,079,391	107,399	
支出計	3,822,992	3,287,392	△ 535,600	

※単年度収支

費目	予算額	決算額	増減
前期繰越金を除く収入	1,836,000	1,300,400	△ 535,600
予備費を除く支出	1,851,000	1,208,001	△ 642,999
収支差額	△ 15,000	92,399	

表2 日本旧石器学会 2020年度特別会計(APA日本大会開催経費積立) 決算(案) 単位:円

収入				
費目	予算額	決算額	増減	摘要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	630,000	630,000	0	
収入計①	780,000	780,000	0	
支出				
費目	予算額	決算額	増減	摘要
APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出計②	0	0	0	
次期繰越金①-②	780,000	780,000	0	

表3 日本旧石器学会 2021年度一般会計予算(案) 単位:円 ※赤字が2020年度との変更点

収入				
	2021年度 予算(案)	【参考】2020年 度決算(案)	【参考】2020 年度予算	摘要
会費収入				
会費収入	1,356,000	1,138,000	1,374,000	4月1日時点会員数226人×6,000円
その他の収入				
会誌頒布代金	140,000	140,800	228,000	
シンポジウム予稿集頒布代金	21,000	21,600	234,000	最新号はPDF配信による(無料)
その他収入	0	0	0	
前期繰越収支差額	2,079,391	1,986,992	1,986,992	
収入計	3,596,391	3,287,392	3,822,992	
支出				
会議費・会場設営費	134,000	0	95,000	オンライン会議システム使用料, 総会・シンポジウム会場使用料・運営補助, 普及講演会会場使用料, 会場備品代
旅費交通費	42,000	0	177,000	シンポジウム発表者・普及講演会講師等の交通費補助
通信運搬費	35,000	171,380	121,000	会誌送料等
消耗品費	3,000	0	3,000	事務用品等
印刷製本費	1,013,000	728,948	1,116,000	会誌印刷, シンポジウム予稿集編集補助, ニュースレター印刷・発送
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	66,000	HP管理・メールリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	60,000	60,000	60,000	1グループ30,000円×2件
日本旧石器学会賞関連経費	36,000	3,564	36,000	賞状製作(3賞), 副賞
雑費	27,000	28,109	27,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費	2,030,391	2,079,391	1,971,992	
支出計	3,596,391	3,287,392	3,822,992	

(備考)年度間の繰越金を除く単年度収支

費目	2021年度 予算(案)	【参考】2020年 度決算(案)	【参考】2020 年度予算
前期繰越額を除く収入	1,517,000	1,300,400	1,836,000
予備費を除く支出	1,566,000	1,208,001	1,851,000
収支差額	△49,000	92,399	△15,000

表4 日本旧石器学会 2021年度特別会計(APA日本大会開催経費積立) 予算(案) 単位:円

収入				
費目	2021年度 予算(案)	【参考】2020年 度決算(案)	【参考】2020 年度予算	摘要
積立金収入	150,000	150,000	150,000	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	780,000	630,000	630,000	
収入計①	930,000	780,000	780,000	
支出				
APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出計②	0	0	0	
次期繰越金①-②	930,000	780,000	780,000	

会計監査報告

本日、本学会の2020年度会計監査を実施し、会計帳簿・帳票類、領収証等を検査したところ、適正に処理されていることを確認しましたので、ここに報告いたします。

2021年 6月 4日

日本旧石器学会会計監査委員

佐久間光平 

鹿又喜隆 

日本旧石器学会 会誌委員会

門脇誠二（委員長）、上峯篤史、小原俊行、沢田 敦、下岡順直

2020 年度 活動報告

1. 会誌「旧石器研究」第 17 号の編集

今年度から新しい編集体制になったため、まず前編集委員会から作業や資料などの引継ぎを行った。2020 年度は大会が開催されなかったため、シンポジウムの特集や記録がない。そのため、ニュースレターなどにおいて、投稿募集を積極的に行った。その結果、十分な数の投稿を得ることができた。

投稿原稿の確認や査読、編集の作業を委員会で分担して行い、下記の論考を掲載した。総説 1 本、論文 6 本、研究ノート 3 本、書評 1 本で総ページ数は 192 ページ。

総説

工藤雄一郎「暦年較正曲線 IntCal20 と日本列島の後期旧石器時代の年代」

論文

長井謙治「日本列島の中期・後期旧石器時代過渡期の石器技術－連鎖と剥離モードを検討する－」

金井拓人・保坂康夫「旧石器時代水晶製遺物の赤外分光分析による原産地推定－甲府花崗閃緑岩体周辺の旧石器遺跡を中心に－」

山崎真治・澤浦亮平・黒住耐二・藤田祐樹・竹原弘展・海部陽介「サキタリ洞遺跡の貝製ビーズと顔料利用に関する新たな知見－沖縄の旧石器文化をめぐる特殊性と普遍性－」

市田直一郎・渡辺文彦・佐藤孝雄・高田 学・鈴木哲也「本州最北部における白色石材の種類とその分布－尻労安部洞窟出土台形石器の分析を中心に－」

岩瀬 彬「北方系削片系細石刃石器群における石器の使い分け－下嵐江 I・II・中土・月岡・箱田遺跡群上原遺跡の石器使用痕分析－」

国武貞克・須藤隆司・堤 隆「日本列島最古の石刃石器群の構成とその起源」

研究ノート

須藤隆司・阿久澤智和・前原 豊・池谷信之「赤城山麓削片系細石刃石器群に伴う黒曜石の原産地推定結果とその検討－頭無遺跡・鳥取福蔵寺 II 遺跡の事例－」

中村由克「珪質頁岩石材産地推定のための解析法－秋田県地蔵田遺跡出土石器を例として－」

光石鳴巳・白石 純・森先一貴「瀬戸内東部の旧石器遺跡におけるサヌカイト産地推定研究の課題」

書評

森先一貴「池谷信之・佐藤宏之 編著『愛鷹山麓の旧石器文化』敬文舎」

2. 投稿規程と執筆要項の改定

投稿規程の改定 1 点と執筆要項の改定 3 点を役員会に提案し承認された。

投稿規程の改定

<改定前>

3. 著作権・二重投稿

...

(4) 掲載論文の著作権 (copyright) は、日本旧石器学会が所有する。

<改定後> 下線部分

3. 著作権・二重投稿

...

(4) 本誌に掲載された原稿の著作権は、日本旧石器学会が所有する。ここでの著作権とは、日本国著作権法第 21 条から第 28 条までに規定された権利である。原稿執筆者の著作者人格権は対象外である。

(5) 本誌は著作権法 12 条 1 項に規定された編集著作物に該当し、その編集著作権を日本旧石器学会が所有する。

(6) 日本旧石器学会に帰属する著作権を利用する場合は、学会の許諾を必要とする。

執筆要項の改定 1

<改定前>

1. 原稿の長さ (枚数)

論文・総説は、刷上り 20 頁以内、研究ノート・資料報告・翻訳は、10 頁以内、書評は 6 頁以内とする。

やむを得ず超過した場合の印刷費用は、依頼原稿を除き原則として著者の負担とし、当面 1 頁あたり 10,000 円とする。ただし会誌委員会から原稿枚数の要請があった場合はこの限りではない。

<改定後> 下線部分

1. 原稿の長さ (枚数)

論文・総説は、刷上り 20 頁以内、研究ノート・資料報告・翻訳は、10 頁以内、書評は 6 頁以内とする。

原稿投稿時に上記の枚数制限を超える場合、超過分の印刷費用は、依頼原稿を除き原則として著者の負担とする。ただし会誌委員会から原稿枚数の要請があった場合はこの限りではない。

執筆要項の改定 2

<改定前>

9. 文章表記

(3) 放射性炭素年代の表記は以下に従う。

①未校正年代の場合は ^{14}C yr BP を付けて表記し、測定機関番号とともに示す。

例：25310±570 14C yr BP (TKa-12283)

②校正年代の場合は cal yr BP を付けて表記する。また、準拠した校正データセットを本文中に明記する。但し、年代値が引用の場合は当該文献が引用されていれば可とする。

例：30610-29550 cal yr BP

<改定後> 下線部分

9. 文章表記

(3) 放射性炭素年代の表記は以下に従う。

①未校正年代の場合は ^{14}C BP あるいは ^{14}C yr BP を付けて表記し、測定機関番号を本文中あるいは図表内で示す。但し、年代値が引用の場合は当該文献が引用されていれば可とする。

例：25310±570 14C yr BP (TKa-12283)

②校正年代の場合は cal BP あるいは cal yr BP を付けて表記する。また、準拠した校正データセットを本文中に明記する。但し、年代値が引用の場合は当該文献が引用されていれば可とする。

例：30610-29550 cal yr BP

執筆要項の改定 3

<改定後> 下線部分

12. 挿図・写真図版

...

(4) 図版は原則としてモノクロ印刷で判別可能にすること。カラー印刷が必要な場合は、その費用は原則として著者の負担とする。ただし会誌委員会から要請があった場合はこの限りではない

2021 年度 活動計画案

会誌第 18 号が充実した内容となるよう責任ある編集体制を確保するため、昨年度に引き続き以下の目標を定める。

(1) 研究企画委員会等と協力しつつ学術的水準を維持し、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、各地域の会員からの投稿を募り、多様な論考を集約する。

(2) 今年同様 2022 年の日本考古学協会までに会誌を刊行する。

(3) 旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知し協力を求める。また、これまでに投稿実績のない執筆者からの投稿も積極的に呼びかける。

ニュースレター委員会

2020 年度活動報告

2020 年度はニュースレター第 45 号、第 46 号、第 47 号の編集・発行を行った。主な内容は下表の通り。

号数	発行年月日	主 な 内 容
第 45 号	2020 年 8 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・会長退任挨拶（2020 年の所見） ・第 18 回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの中止のお知らせ ・2019 年度委員会報告 ・2020 年度活動計画 ・2019 年度日本旧石器学会賞受賞者 ・2020 年度学会賞の推薦について ・研究グループの運営費交付金の繰越制度の導入について ・2020 年度日本旧石器学会役員会（2020 年 4 月～ 2021 年 3 月） ・『旧石器研究』の原稿募集 ・会費振込期限の猶予措置について ・お知らせ <p>【12 頁】</p>
第 46 号	2020 年 12 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県佐久市香坂山遺跡の発掘調査 ・2019 年度日本旧石器学会賞受賞者報告 ・出版情報 ・研究大会について ・2020 年度学会賞の推薦について ・お知らせ <p>【8 頁】</p>
第 47 号	2021 年 5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木遺跡の国指定史跡化への取り組み ・2021 年度日本旧石器学会第 19 回総会・研究発表・シンポジウムの開催 ・研究グループ 2020 年度活動報告 ・関連学会・出版情報 ・お知らせ <p>【8 頁】</p>
	同封物	送り状 会費振込依頼文書（A5）■ 払込取扱票■

※今年度より、ニュースレターの印刷および発送作業を同一業者に委託するようになったため、手続きが煩雑になっていることから（■）の書類については紙媒体で発送する必要があるのか検討していただきたい。

ニュースレター委員会 2021 年度活動計画（案）

2021 年度はニュースレター第 48 号、第 49 号、第 50 号の編集・発行を行う。掲載を予定している主な内容は下表の通り。

号数	発行年月日	主 な 内 容
第 48 号	2021 年 8 月	<ul style="list-style-type: none">・ 寄稿記事・ 2020 年度委員会報告・ 2021 年度活動計画・ 2021 年度日本旧石器学会役員会（2021 年 4 月～ 2022 年 3 月）・ 2020 年度日本旧石器学会賞受賞者の発表・ 2021 年度学会賞の推薦募集・ 『旧石器研究』の原稿募集・ 関連学会・出版情報・ お知らせ
第 49 号	2021 年 12 月	<ul style="list-style-type: none">・ 寄稿記事・ 2020 年度日本旧石器学会賞受賞者報告・ 役員選挙公報・ 2022 年度総会・研究発表・ポスターセッション発表の募集・ 普及講演会の案内・ 関連学会・出版情報・ お知らせ
第 50 号	2022 年 4 月	<ul style="list-style-type: none">・ 寄稿記事・ 2022 年度総会・研究発表・シンポジウムの案内・ 普及講演会報告・ 研究グループ 2021 年度活動報告・ 関連学会・出版情報・ お知らせ

渉外委員会

2021年6月19日

渉外委員長 出穂雅実

2020年度活動報告

1. アジア旧石器協会(APA)に関して

- 2020年8月22日～28日に開催予定であったAPA2020中国大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により2021年度に延期された。
- 王幼平会長(北京大学教授)以下、APA現執行体制の任期も合わせて2021年度大会まで延長された。
- APA事務局に、日本旧石器学会会長(APA副会長)に佐藤宏之、APA運営委員に出穂雅実、平澤悠が就任したことを通知し、円滑な連絡・調整体制の構築に努めた。
- 延期された第10回APA中国大会は、2021年8月21～27日に中国河南省鄭州市において開催されることが決定した。
- 日本旧石器学会会員に、大会実施案内(サーキュラー)をEメールにて配布した。
- 日本旧石器学会HPに、大会開催の通知とサーキュラーを掲示した。

2. 海外でのシンポジウム等の情報提供

- 2020年度は新型コロナの影響で、海外における主要な国際学会・シンポジウムが中止もしくはオンライン開催となったため、会員への情報提供は実施しなかった。

2021年度活動方針(案)

1. アジア旧石器協会(APA)に関して

- 2021年度8月21～27日に中国河南省鄭州市において開催予定の第10回APA中国大会には、渉外委員およびAPA執行委員はオンラインでの参加を予定している。

2. 海外でのシンポジウム等の情報提供

- 新型コロナ感染拡大の影響から、昨年度は多くの国際学会ならびにシンポジウムが中止もしくはオンライン開催となった。この傾向は、本年度も継続することが予測されるが、関連する国際学会やシンポジウムの(オンラインを含む)開催情報については情報提供したい。

2021年6月19日

日本旧石器学会研究企画委員会 2020年度活動報告・2021年度活動予定（案）

1. 2020年度活動報告

(1) 第18回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催中止

以下の日程と会場で予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった

日程：2020年6月13日（土）～14日（日）

会場：札幌国際大学キャンパス

(2) 第19回大会開催にむけての準備

- 研究企画委員会では感染症の拡大状況も鑑みながら、対面式とオンライン式の両方で開催できるよう準備を進めてきたが、最終的に12月に開催された役員会でオンラインでの開催が決定された。シンポジウムのテーマおよび発表者は第18回で予定されていた計画を引き継いだ。

2. 2021年度活動予定（案）

(1) 第19回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

プログラム：[資料1](#)

- シンポジウム「北海道の旧石器時代と集団」発表5本（趣旨説明除く）
- 一般研究発表：口頭11本（1本20分）、ポスター発表なし

(2) 第20回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの準備

- 次年度のシンポジウムの企画準備
- 会場 愛知県名古屋市 名古屋大学（予定）
- 2022年6月4～5日（予定）

2021年度研究企画委員会

高倉 純、尾田識好、高屋敷飛鳥、亀田直美、中沢祐一、藤田祐樹

第 19 回日本旧石器学会 2021 年度総会・研究発表・シンポジウムの開催

開催方式

- ・ Zoom を使用したオンラインで開催する。
- ・ 要旨集については学会ホームページで公開する。
- ・ 参加者は、5 月下旬に学会ホームページに掲載する URL から参加登録を行う。
- ・ 今年度の総会・研究発表・シンポジウムの参加登録の受付は、学会員であることを条件とする。

2021 年 6 月 19 日 (土)

- 開会あいさつ (10 時 30 分～10 時 35 分) ※10 時 00 分よりオンライン受付開始
- 総会 (10 時 35 分～11 時 35 分)
- 学会賞授賞式 (11 時 35 分～11 時 45 分)
- 昼食休憩 (11 時 45 分～13 時 00 分)
- 一般研究発表 (13 時 00 分～17 時 00 分)
 - ・ 13:00～ 酒巻孝光「星野遺跡新資料の概要」
 - ・ 13:20～ 須賀永帰・一ノ瀬菜月・東田和弘・門脇誠二「南ヨルダンの中部～上部旧石器時代における石器石材利用の変化」
 - ・ 13:40～ 海部陽介・郭天俠・詹森・久保田好美「琉球列島における後期旧石器時代“漂流説”についての実験的検証」
 - ・ 14:00～ 国武貞克「中央アジア西部の初期後期旧石器時代 (IUP 期) 石器群の石器組成と技術組成」
 - ・ 14:20～ 上峯篤史・村瀬早紀・村井咲月・吉田真優・鈴木しゅん菜「岐阜県下呂市湯ヶ峰流紋岩原産地における考古学・地質学的調査 (1)」
 - ・ 14:40～ 休憩
 - ・ 15:00～ 熊谷亮介「旧石器研究における『機能形態学』に向けて—山形地域の石刃石器群を対象とした試論—」
 - ・ 15:20～ 野口 淳「ナイフ形石器『型式』再考」
 - ・ 15:40～ 青木要祐・佐々木繁喜・傍島健太「本州における白滝型細石刃石器群の黒曜石利用」
 - ・ 16:00～ 橋詰 潤「小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土のいわゆる『植刃』と関連資料の再検討」
 - ・ 16:20～ 千葉 史・横山 真・佐藤祐輔・神田和彦・野口 淳「石器接合資料の 3D 計測と可視化・定量化」
 - ・ 16:40～ 藤野次史・中村由克・沖 憲明・稲村秀介・森本直人「広島県域における地域石材と石材調査—高田流紋岩類を中心に—」

2021年6月20日(日)

○シンポジウム(9時30分～14時00分)

- ・9:30～ 研究企画委員「趣旨説明」
- ・9:40～ 鈴木 仁「第四紀後期の日本産小型哺乳類の集団動態を考える」
- ・10:05～ 高倉 純「北海道における細石刃技術の出現と集団動態」
- ・10:30～ 山田 哲「日本列島における細石刃石器群の成立ー特に稜柱系細石刃石器群の生成と特性についてー」
- ・10:55～ 赤井文人「北海道後期細石刃石器群の遺跡間比較」
- ・11:20～ 夏木大吾「北海道における更新世・完新世移行期の人類社会」
- ・11:45～ 休憩
- ・13:00～ パネルディスカッション シンポジウム報告者全員、司会(研究企画委員)

○若手奨励賞発表・閉会セレモニー(14時00分～14時10分)

データベース委員会 2021年度総会報告

2020年度活動報告

(1) 更新・改訂作業

① 基本方針

- ・「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを“最新のデータにもとづき、より使いやすく、維持管理の容易なデータベースに!”
- ・2010年版以降の新データと欠落データの追加・補足、収録情報の確認、とくに位置情報の高精度化を進める。
- ・文献書誌情報の外部データベースとの紐づけ（奈文研「総覧」ほか）。

② 「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作業ハンズオン・ワークショップ（WS）

- ・北関東（群馬県）、北陸（新潟県）での開催を計画してきたが、コロナ禍で対面開催は困難と判断し、10月からオンライン開催に向けた検討を開始した。1月にはデータベース委員で模擬開催し、開催可能と判断した。現在、群馬県を対象地域としたオンライン開催（6月27日）に向けて準備を進めている。

(2) 更新・改訂版の公開準備

- ・2010年版公開ページを一部修正し、データベース利用規約のページを新設した。
- ・北海道、秋田県、宮城県、奈良県、岡山県が更新・改訂を完了。12月を目途に順次、更新済みデータを公開する。

2021年度活動計画

(1) 改訂・更新作業の継続

- ・基本はウェブ上での協働（共同）作業で進める（できる人が、できる時に!）。
- ・更新作業WSをオンライン開催し、協力者を確保し作業方法を周知。開催地域の候補として北陸（新潟県）、四国（愛媛県）などがあげられる。
- ・研究上価値のある付加情報の整備とより効果的なDB連携について検討する。引き続き奈良文化財研究所との協働を予定。

(2) 改訂・更新版の公開

- ・作業が完了した部分から都道府県単位での公開を予定。
- ・外部サービスの利用・連携をはかり、更新・改訂完了分からデータソースを差し替える。

(3) 課題

- ・個人および地域研究会等の協力を得てWSを開催してきたが、その後の更新作業の進捗に必ずしもつながっていない現状がある。依然としてほぼ手つかずの地域も残る。
- ・WSの開催とともに、開催後のサポートが課題。広く協力者を得ての体制づくりが必要である。
- ・WSのオンライン開催は、対面開催より実施回数を増やしやすというメリットがある反面、参加者のフォローに課題が残る。手探り状態であるが、課題を整理しながら実施していきたい。

データベース委員会（2020年度）

加藤 学、沖野 実、熊谷亮介、小原俊行、野口 淳、光石鳴巳

会資格審査委員会 2020 年度活動報告・2021 年度活動計画

入会資格審査委員長 諏訪間順

1. 2020 年度活動報告

入会申込があった、

酒井 裕志 (サカイ ヒロシ 2020 年 7 月 21 日入会申込、7 月 23 日資格審査結果報告)

上峯 篤史 (ウワミネ アツシ 2020 年 7 月 31 日入会申込、8 月 2 日資格審査結果報告)

菅 紀浩 (スガ ノリヒロ 2020 年 11 月 30 日入会申込、12 月 1 日資格審査結果報告)

今年から 4 月 1 日から 3 月 31 日の年度期間中の資格審査状況を報告する。

2020 年度は、以上 3 名の入会申込者の資格審査を諏訪間、沢田敦で厳正に行い、会長に結果を報告した。

2. 2021 年度活動計画

入会申込者の資格審査を迅速に行う。

会員各位においては、引き続き、積極的に入会希望者の掘り起こしと勧誘を行っていただきたい。

広報委員会

■2020 年度活動報告

1. ホームページ等において、旧石器学会、講演・共催事業・関連学会等の情報を提供した。

①ホームページ更新

5月11日 「ニュースレター第44号」の掲載

6月8日 「2020年度日本旧石器学会総会資料」の掲載

7月7日 「2020年度役員体制」、会誌「旧石器研究」の原稿送付先等の掲載

7月26日 「阿子島香会長退任所見」の掲載

「旧石器研究第16号(2020年5月刊行)目次」の掲載

「2020年8月22日～28日 第10回APA(中国 河南省鄭州市)の延期について」掲載

8月3日 「佐藤宏之新会長挨拶」の掲載

8月9日 「長野県佐久市香坂山遺跡のオンライン現地説明会」の掲載

8月26日 「日本旧石器学会研究グループ規定 改訂版」の掲載

「ニュースレター第45号」の掲載

9月11日 「アナザーストーリーズ 運命の分岐点 偽りの“神の手”旧石器発掘ねつ造事件」の番組紹介の掲載

10月13日 「2020年度役員体制 改訂版」の掲載

12月17日 「ニュースレター第46号」の掲載

2月24日 「2021年度日本旧石器学会研究発表の募集案内」の掲載

5月29日 「日本旧石器学会 2021年度総会・研究発表・シンポジウム参加登録」の掲載

「ニュースレター第47号」の掲載

6月2日 「2021年度日本旧石器学会第19回総会・研究発表・シンポジウム」プログラムの掲載

「第10回アジア旧石器協会中国大会(APA) 1st Circular」の掲載

「学会誌の執筆要項の改定」を掲載

②メーリングリストによる情報提供(随時)

③その他

「アナザーストーリーズ 運命の分岐点 偽りの“神の手”旧石器発掘ねつ造事件」番組への写真提供

■2021 年度活動計画

日本旧石器学会や旧石器時代の周知PRのために、普及講演会の開催、HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

1. 普及講演会を開催し、学会や旧石器時代の周知・PRに努める。

オンラインでの開催を予定(1回もしくは2回)。

2. 旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。

①掲載遺跡が少ない北陸・東海、九州を中心に10遺跡前後を構想している。

②「旧石器時代の教科書」についても、コンテンツの追加を検討する。

3. HPへのアクセスを増やすための方策を検討する。

①閲覧・ダウンロード数の確認と分析を実施する。

②データベース委員会との連携

遺跡データベース改訂に向けて取り組む。

4. その他 旧石器時代関連の周知に関する共催・後援・協力事業を実施する。

(広報委員会 尾田識好・沖野 実)

日本旧石器学会賞選考結果報告

日本旧石器学会賞選考委員会
委員長 佐野 勝宏

2020年度の日本旧石器学会賞選考委員会を2021年4月10日（土）に開催し、以下の通り選考した。

1. 2020年度学会賞受賞候補者

加藤 真二会員（奈良文化財研究所）

選考理由

学会賞は、旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員に授与する。学会員からの推薦に基づき、当委員会は加藤真二会員を2020年度の学会賞受賞候補者として選考した。

加藤会員は、長年に渡って中国旧石器研究に携わり、常にその成果を発信し続けてきた。2000年には、『中国北部の旧石器文化』を出版し、中国旧石器時代の時期区分と技術変遷をまとめた。本書は、加藤氏が遂行した膨大な資料調査と文献調査に基づき、網羅的な中国旧石器時代データが提示されている。また、加藤会員は、中国人研究者と共同で中国華北地方に所在する霊井遺跡の細石刃石器群の調査研究を進め、矢出川技法は中国華北地方で出現し、この技術が西南日本に伝播したとする仮説を提示した。近年では、中国の約20～2万年前の134の石器群を類型分類し、その時空間変遷をまとめた成果を『日本旧石器研究』第15号に投稿した（「中国の旧石器—その石器群類型と編年—」）。これらの成果は、日本列島に近接する東アジアの旧石器時代の概要を把握する上で重要な情報源であり、日本旧石器研究の発展に資するところ大である。以上の理由により、加藤会員の業績は学会賞に相応しいと考える。

2. 2020年度論文賞受賞者

尾田識好会員（東京都埋蔵文化財センター）

選考理由

論文賞は、会誌『旧石器研究』に優れた業績を発表した会員に授与する。当委員会は尾田識好会員を2020年度の論文賞受賞候補者として選考した。

尾田会員は『旧石器研究』第15号（2019）に「武蔵野台地における後期旧石器時代初頭の編年と行動論—武蔵台遺跡の分析を中心に—」を発表した。本論文で対象とした東京都府中市武蔵台遺跡は、後期旧石器時代初頭の遺跡で、そこで出土した立川ロームX層の石器群は、「Xb文化層」と「Xa文化層」の異なる編年段階に区分できるか否かで長らく論争の対象であった。尾田氏は、研究史を整理して問題の所在を明らかにした上で、石器群のファブリック解析とサイズ・ソーティング分析を行い、その形成過程を検討した。その結果、Xb層を主な出土層準とする一群とXa-IX層下部を主な出土層準とする一群は層位的に区分でき、両石器群の特徴から編年的にも区分し得る事を指摘した。武蔵台遺跡は、尾田会員が発掘調査した遺跡であり、その詳細な検討方法は、当時の活動痕跡の区分単位を評価する上で今後参照すべきケーススタディーと言える。したがって、尾田会員の当業績は論文賞に相応しいと考える。

2021年度 日本旧石器学会役員会

会 長：佐藤宏之

副会長：諏訪間順

幹 事： 赤井文人 出穂雅実 沖野 実 尾田識好 越知睦和 小野章太郎 加藤 学
門脇誠二 国武貞克 熊谷亮介 小原俊行 沢田 敦 下岡順直 高倉 純
高屋敷飛鳥 平澤 悠 森先一貴 山崎真治 山田和史 渡辺丈彦

委員会名簿

総務委員会： * 渡辺丈彦 国武貞克 森先一貴 佐野勝宏
会計委員会： * 小野章太郎 越知睦和 沖 憲明
会誌委員会： * 門脇誠二 小原俊行 沢田 敦 下岡順直 上峯篤史
ニュースレター委員会： * 山崎真治 赤井文人 山田和史
渉外委員会： * 出穂雅実 平澤 悠 阿子島 香
研究企画委員会： * 高倉 純 尾田識好 高屋敷飛鳥 亀田直美 中沢祐一 藤田祐樹
データベース委員会： * 加藤 学 沖野 実 小原俊行 熊谷亮介 野口 淳 光石鳴巳
入会審査委員会： * 諏訪間順 沢田 敦
広報委員会： * 尾田識好 沖野 実

*は委員長、__は委嘱委員

会計監査委員： 佐久間光平 鹿又喜隆

日本旧石器学会賞選考委員：* 佐野勝宏 佐藤宏之 諏訪間順 高倉 純 渡辺丈彦

アジア旧石器協会： 佐藤宏之（副会長）

出穂雅実 平澤 悠 （執行委員）

選挙管理委員(案)

委員長：佐藤 孝雄 会員(神奈川) 鈴木 美保 会員(東京) 亀田 直美 会員(千葉)